

No. 197 April 1 2025

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

シニア懇談会からのお知らせ 入会・ニュース原稿募集

触媒学会シニア懇談会世話人代表 赤間 弘

触媒学会シニア懇談会は2008年12月に発足し、シニア懇談会ニュースを毎月1号のペースで発行してきました。その趣旨は、消息・近況・経験談などを紹介しあい、会員の情報交換を図ることにあり、主として懇談会メンバーに投稿してもらう、とされております。本懇談会は発足以来、実に16年の長きにわたり、代表の室井様、出口様をはじめとするメンバーの皆様に支えられ、欠かすことなくニュースが届けられてまいりました。

過去のタイトルと著者を表にまとめましたが、御覧の通り、工業触媒技術の歴史を反映した体験談も多く、これらをまとめて、「わが国の工業触媒の歴史 総説と記録 -20世紀からの伝言-」が室井様を中心として編纂され、2018年2月に発刊されました。触媒学会としても大きな成果であり、実に読み応えのある技術宝庫と言える一冊となっております。改めてご一読をお勧めします。

その後も、初志の趣旨に基づいてシニア懇談会ニュースは継続されており、様々な視点のニュースが配信されてまいりました。本ニュースは“主として懇談会メンバーに投稿してもらう”とされておりますが、投稿に関しては、**メンバーであることは必須要件ではありません。** また、この度、シニア懇談会規約が変更され、“**シニア懇談会は、触媒学会会員で60歳以上の会員の任意参加者により構成される。**”とさせて頂きました。皆様の貴重な知識・経験を確実に伝承・引き継ぐためにも、**年齢幅を広げる**ことは有益だと考えます。

一人でも多くの方に、ぜひともシニア会員に加わっていただき、皆様には、消息・近況・経験談など、必ずしも触媒のジャンルにこだわりなく広く原稿をお寄せいただきますよう改めて投稿をお願い致します。また、シニア懇談会へのご入会、ご要望・ご提案などありましたら、是非ともご連絡いただきますようお願い致します。

会員交流の場としてシニア懇談会ニュースの発行が続きますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

さて、ご挨拶が遅れましたが、この度、赤間（静岡大学工学部、元日産自動車）が室井様より世話人代表を引き継ぎました。ご支援、ご鞭撻のほど、何卒、宜しくお願い致します。

原稿送付先： [akama.hiroshi\(a\)shizuoka.ac.jp](mailto:akama.hiroshi(a)shizuoka.ac.jp) (世話人代表：赤間 弘)
[yamamatsu-s\(a\)vic-info.co.jp](mailto:yamamatsu-s(a)vic-info.co.jp) (事務担当：山松節夫)

シニア懇談会ニュース発行リスト(著者敬称略)

号	発行日	著者	タイトル
1	2008年12月	室井 高城	懇談会発足について
2	2009年1月	高橋 武重	キュート便り
3	2009年2月	土屋 晋	土壌から自動車燃料？
4	2009年3月	出口 隆	「シルバー研究所」構想
5	2009年4月	志賀 昭信	PC片手にキャタリシスの野原散策ーシニアで始める計算化学の楽しみ方ー
6	2009年5月	野尻 直弘	触媒シニアパワーの活用現場
7	2009年4月	上松 敬禧	触媒研究の現場からはなれて
8	2009年7月	藤宗 篤雄	触媒燃焼は面白い
9	2009年8月	西川 廣継	シニア懇談会ニュースライター原稿
10	2009年9月	泉 美治	サッカーには栄養がない
11	2009年10月	土屋 晋	秘書のタイプライターの活字が科学を変えた？
12	2009年11月	丁野 昌純	GSCに関する一提言ー独自のバイオリファイナリーの構築に向けてー
13	2009年12月	鈴木 俊光	大学生生活40有余年を振り返って
14	2010年1月	御園生 誠	理由なき削減目標競争を憂えるーコストパフォーマンス考え正しい対策をー
15	2010年2月	松田 臣平	触媒懇談会ニュース
16	2010年3月	秋鹿 研一	持続可能社会に必要なアンモニア燃料について
17	2010年4月	木村 洋	新技術の誕生から工業化、世界への波及、成長、成熟、そして次世代技術開発へー高級アルコール系3級アミン製造触媒の開発事例からー
18	2010年5月	安田 祐介	Ertl のノーベル賞と Bond の視点
19	2010年6月	市橋 宏	小学校理科教育に思う
20	2010年7月	西村 陽一	残油接触分解(RFCC)触媒の開発工業化
21	2010年8月	室井 高城	日本の触媒産業
22	2010年9月	荒木 道郎	北海道雑感
23	2010年10月	志賀 昭信	住化PPプロセス開発小史 (その1) ソルベイ三塩化チタンの導入
24	2010年11月	服部 英	「パラグラフ・ライティング」を担当して
25	2010年12月	菌頭 健吉	Pd/Cu クロスカップリング触媒によるアセチレンのホモカップリング
26	2011年1月	坂田 五常	外資系触媒会社での経験
27	2011年2月	鈴木 俊光	バイオマスガス化の学会 (ドイツ) に参加して
28	2011年3月	丁野 昌純	石化プロセスの触媒開発ー時の流れー
29	2011年4月	シニア懇談会の皆様	福島原発事故
30	2011年5月	シニア懇談会の皆様	福島原発事故-2
31	2011年6月	室井高城	福島原発事故-3 原子力発電所での水素爆発防止
32	2011年7月	室井 高城	福島原発事故-4 原子力発電所異常水素濃度上昇事故
33	2011年8月	高橋 武重	福島原発事故-5 このような計算式は正しいでしょうか
34	2011年9月	高橋 武重	福島原発事故-6 ベクレル(Bq)からシーベルト(Sv)への換算について
35	2011年10月	出口 隆	福島原発事故-7 ベクレルとシーベルト

36	2011年11月	丹羽 幹	Trip to US Mountain Area
37	2011年12月	斉藤 泰和	神楽坂問題集
38	2012年1月	志賀 昭信	住化 PP プロセス開発小史 (その2) 自社触媒 DX シリーズの開発
39	2012年2月	植 瀧 陸男	「日本触媒の起源はバナジウム触媒 (日本触媒: ルーツ)
40	2012年3月	西村 陽一	接触分解プロセスおよび触媒の進歩 (1)
41	2012年4月	古尾谷 逸生	DeNOx 触媒開発のいきさつ
42	2012年5月	福井 優博	ZrO ₂ 触媒の思い出
43	2012年6月	土屋 晋	古事記の小碓の命 古典に書かれたエネルギー資源
44	2012年7月	西村 陽一	接触分解プロセスおよび触媒の進歩 (2) — 流動接触分解 (FCC) 法の商業化 —
45	2012年8月	丁野 昌純	20 世紀後半の日本の化学産業の歩み—石油化学プロセス開発がもたらしたもの—
46	2012年9月	室井 高城	MTO (Methanol to Ethylene and Propylene) プロセス
47	2012年10月	土屋 晋	触媒討論会の思い出 1
48	2012年11月	薄井 耕一	シリカ・アルミナ系触媒雑感
49	2012年12月	志賀昭信	Ziegler-Natta オレフィン重合工業触媒~ポリプロピレン(PP)のプロセス開発を経験した技術者の備忘録~
50	2013年1月	西村 陽一	接触分解プロセスおよび触媒の進歩 (3) —ゼオライト含有触媒の開発—
51	2013年2月	室井 高城	MTP (Methanol to Propylene) プロセス
52	2013年3月	出口 隆	過酸化水素の直接合成反応シミュレーション
53	2013年4月	野尻 直	退職後の趣味
54	2013年5月	中村 征四郎	触媒は正に生き物である
55	2013年6月	丹羽 幹	シンガポールにて, 雑感
56	2013年7月	高須 芳雄	電極触媒に関する研究会と私
57	2013年8月	田部 浩三	酸・塩基触媒の歴史
58	2013年9月	田丸 謙二	人類を救った人達と触媒作用
59	2013年10月	朝倉 清高	Fritz-Haber 研究所 100 周年祝賀会
60	2013年11月	丁野 昌純	アリル酸化触媒-Mo 系複合酸化物触媒の歩み
61	2013年12月	中村征四郎、 安井 昭夫	酢酸ビニル製造技術の変遷
62	2014年1月	植 瀧 陸男	硫酸触媒の歴史
63	2014年2月	志賀 昭信	Natta プロピレン重合触媒 ポリプロピレン(PP)のプロセス開発を経験した触媒技術者の物語
64	2014年3月	柏 典夫	高活性 MgCl ₂ 担持 Ti 触媒
65	2014年4月	松島 龍夫	表面反応場は捉えられたか
66	2014年5月	小宮 三四郎	わが国におけるクロスカップリング触媒研究の歴史
67	2014年6月	植 瀧 陸男	無水フタル酸触媒の歴史
68	2014年7月	赤間 弘	自動車 (ディーゼル) 用触媒の変遷
69	2014年8月	松浦 一雄	ポリエチレン工業触媒製造プロセス・材料開発とともに進化した道のり
70	2014年9月	永原 肇	シクロヘキセン法シクロヘキサノール製造プロセス
71	2014年10月	飯塚 泰雄	「古墳」の語る日本という国 富田林 —土地と歴史—
72	2014年11月	室井 高城	シェールガス革命の影響
73	2014年12月	萬ヶ谷 康弘	アクリル酸製造触媒の開発史
74	2015年1月	鈴木 俊光	石炭直接液化触媒
75	2015年2月	三上 尚孝	PHILLIPS 触媒
76	2015年3月	室井 高城	日本で行われた FT 合成

77	2015年4月	室井 高城	油脂触媒の始まり
78	2015年5月	志賀 昭信	私の計算化学事始
79	2015年6月	今成 眞	触媒化学の課題
80	2015年7月	御園生 誠	野尻直弘さんを偲ぶ
81	2015年8月	室井 高城	センサに用いられている触媒
82	2015年9月	市橋 宏	小学校理科教育支援のすすめ
83	2015年10月	蔵本正彦	メタロセン重合触媒
84	2015年11月	高橋 武重	直接脱硫触媒の活性劣化とその対策 (その1)
85	2015年12月	高橋 武重	直接脱硫触媒の活性劣化とその対策 (その2)
86	2016年1月	高須 芳雄	カソード触媒開発が面白い
87	2016年2月	竹平 勝臣	一国立研究所での触媒研究あれこれ
88	2016年3月	竹平 勝臣	ハイドロタルサイトからの触媒開発について
89	2016年4月	中村征四郎	安井昭夫さんを偲ぶ
90	2016年5月	室井 高城	今後の化学品原料
91	2016年6月	竹下 宗一	触媒周辺技術の発展についての印象
92	2016年7月	土屋 晋	最も有名なフランス人は?
93	2016年8月	出口 隆	老境三題 - 限りある挑戦 -
94	2016年9月	濱田 秀昭	研究生活を振り返って
95	2016年10月	竹平 勝臣	「農繁休業」に関わる思い出
96	2016年11月	室井 高城	メタンケミストリー触媒の開発動向
97	2016年12月	浅岡 佐知夫	難得糊塗: 何ごと「工業触媒」で考える癖
98	2017年1月	菊地 英一	メンブレンリアクター四方山話
99	2017年2月	宮本 明	触媒学会・触媒研究の思い出
100	2017年3月	藤原 英明	芸は身をたすく
101	2017年4月	飯田逸夫	矢来町、神楽坂の話
102	2017年5月	御園生 誠	地球温暖化の原因を再考する
103	2017年6月	難波 征太郎	水中で活性な固体酸触媒の発見
104	2017年7月	八嶋 建明	Field trip
105	2017年8月	戸嶋 直樹	地球一周の船旅から帰って
106	2017年9月	今成 眞	最近のバイオテクノロジーの話題、「ゲノム編集」
107	2017年10月	青島 淳	ソハイオ法に学ぶ
108	2017年11月	阿部伸幸	中国にて 雑感
109	2017年12月	志賀昭信	コミュニケーションツールとしての計算化学
110	2018年1月	飯塚 泰雄	化学史に学ぶ” Chemistry” の魅力 I
111	2018年2月	飯塚 泰雄	化学史に学ぶ” Chemistry” の魅力 II
112	2018年3月	飯塚 泰雄	化学史に学ぶ” Chemistry” の魅力 III
113	2018年4月	岡本 康昭	触媒化学源泉への散歩道 (1)
114	2018年5月	岡本 康昭	触媒化学源泉への散歩道 (2)
115	2018年6月	岡本 康昭	触媒化学源泉への散歩道 (3)
116	2018年7月	植瀧 陸男	故田部先生を偲んで
117	2018年8月	蔵本 正彦	CO ₂ を原料とする化学品、高分子合成
118	2018年9月	田丸 謙二	日本の教育改革について
119	2018年10月	蔵本 正彦	プラスチックリサイクル
120	2018年11月	室井 高城	中国エチレン, プロピレン近況
121	2018年12月	竹平勝臣	サウジアラビア・KFUPMでの研究指導
122	2019年1月	赤間 弘	自動車触媒における耐熱性向上技術の系譜
123	2019年2月	志賀昭信	プラスチックの廃棄処理に想う
124	2019年3月	常木英昭	ハニカムコート触媒のセル形状と触媒有効係数

125	2019年4月	飯田逸夫	早稲田方面の話
126	2019年5月	御園生 誠	真に有効な二酸化炭素排出の削減策は何か —ドイツの実績についての—考察—
127	2019年6月	泉 有亮	人材を育てる
128	2019年7月	村田 和久	バイオマスと触媒の関わり
129	2019年8月		「書く力」のコーチング, その狙い —理系企業人を目指す学部学生のための工学倫理教育 (第一報) —
130	2019年9月	中條哲夫	工業触媒と 38 年間
131	2019年10月	室井 高城	都市ごみからエタノール合成
132	2019年11月	山松 節男	論理的プレゼンテーション力のコーチング—理系企業人を 目指す学部学生のための工学倫理教育 (第二報) —
133	2019年12月	中條 哲夫	ものづくりの武器にすべき FLOW 技術
134	2020年1月	森 邦夫	シニアの元気な街
135	2020年2月	出口 隆	過水合成の不思議-1
136	2020年3月	出口 隆	過水合成の不思議-2
137	2020年4月	竹平 勝臣	LDHs ナノシート
138	2020年5月	常木英昭	オンライン事業雑感
139	2020年6月	今木 直	コロナ雑感
140	2020年7月	出口 隆	コロナウィルス考
141	2020年8月	濱田秀昭	疑似科学雑感
142	2020年9月	野村琴広	故鈴嶋剛夫様を偲んで
143	2020年10月	室井 高城	バイオマス・都市ゴミから航空燃料
144	2020年11月	村田和久	バイオメタン分解による水素製造と触媒
145	2020年12月	中條哲夫	炭酸ガスを化学原料にするには
146	2021年1月	蔵本正彦	バイオブラスチック
147	2021年2月	室井 高城	新たな酢酸製造プロセス
148	2021年3月	出口 隆	「地球温暖化問題」の真実とは？
149	2021年4月	島田広道	西村陽一さんを悼む
150	2021年5月	常木英昭	触媒有効係数は一定値？
151	2021年6月	三上 純司	カラオケから NET 問題へ
152	2021年7月	室井 高城	廃プラスチックのケミカルリサイクル
153	2021年8月	宮本 明	進化する社会と学問：触媒・コンピュータ化学研究の50余年を通して
154	2021年9月	鈴木 俊光	カーボンニュートラル、水素社会” 雑感
155	2021年10月	村田和久	BTL はどのように変質したか？
156	2021年11月	清浦忠光	残念な反応
157	2021年12月	中條哲夫	「可能」と「実現できる」は別”に賛同 (鈴木俊光先生著 No.154)
158	2022年1月	山松節男	「人生三毛作」 ～人にできないことで、高齢者となった自分にできること～
159	2022年2月	飯田逸夫	コロナの感染挙動について
160	2022年3月	蔵本正彦	浄水の確保と利用について
161	2022年4月	志賀昭信	1. 化学反応とは
162	2022年5月	御園生 誠	地球温暖化の原因と“脱炭素ビジネス”
163	2022年6月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道(1)
164	2022年7月	室井 高城	CCS の課題
165	2022年8月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道(2)
166	2022年9月	村田和久	合成ガスからのエチレングリコールの常圧合成—実用化への

			期待を込めて
167	2022年10月	高須芳雄	主査の説と対立する博士論文
168	2022年11月	山松節男	「科学的思考」を武器にする ～例えば, PDCA 力 (仮説と検証) ～
169	2022年12月	竹平 勝臣	「水素社会」と触媒
170	2023年1月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (3/9)
171	2023年2月	室井 高城	SAF (Sustainable Aviation Fuel)
172	2023年3月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (4/9)
173	2023年4月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (5/9)
174	2023年5月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (6/9)
175	2023年6月	中條哲夫	新しい炭素源としての廃プラ
176	2023年7月	常木英昭	生兵法は怪我のもと?
177	2023年8月	服部 忠	点字ボランティア記
178	2023年9月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (7/9)
179	2023年10月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (8/9)
180	2023年11月	中條哲夫	新炭素源 “廃プラ” を効果的に原料化する
181	2023年12月	室井高城	CO2 からエタノールの合成
182	2024年1月	岡本康昭	触媒化学の歩みをめぐる散歩道 (9/9)
183	2024年2月	室井高城	e-ガソリン プロジェクト
184	2024年3月	山松節男	科学的思考を武器にする (第1報) ～書くことは考えること～
185	2024年4月	中條哲夫	新炭素源 “廃プラ” を高付加価値化(upcycling)する
186	2024年5月	飯塚泰雄	2050年カーボンニュートラル実現に向けてのバイオマス貢献 Part I 日本のエネルギー消費を賄うのに必要な太陽電池設置面積
187	2024年6月	室井高城	廃プラスチック熱分解油のナフサ利用
188	2024年7月	中條哲夫	新炭素源 “廃プラ” の高付加価値化(upcycling)を探る
189	2024年8月	中條哲夫	“廃プラ” 処理の深刻な問題、塩ビを考える
190	2024年9月	飯塚 泰雄	CN 貢献バイオマス_Part II
191	2024年10月	竹平 勝臣	分子状酸素(竹平さん)
192	2024年11月	飯塚泰雄	CN 貢献バイオマス_PartIII Supplement
193	2024年12月	中條 哲夫	塩ビ問題続(
194	2025年1月	中條 哲夫	カーボンニュートラル
195	2025年2月	山松節男	戦略思考の言語化 第2報
196	2025年3月	中條 哲夫	「カーボンニュートラル」でも廃プラは重要
197	2025年4月	赤間 弘	シニア懇談会からのお知らせ 入会・ニュース原稿募集

